

道道鷹栖東鷹栖比布線工事に対する  
要望書 についての回答

突哨山運営協議会役員会  
代表 出羽 寛 様

比布町長 村中 一徳

日頃より、突哨山及び周辺の自然・環境の保全事業等に御尽力いただきまして、大変ありがとうございます。

昨年5月に改良予定線形上で行われました、合同現地調査(第2回ワークショップ)にて発見されたカタクリの群生について、移植の有効性を調査してきましたが、移植から約19年経過している比布トンネル工事で移植を行っている現地を、令和2年4月23日に皆様と視察し、カタクリ等はきれいに咲いており移植の有効性を確認したところです。

今回は、同日付けで「道道鷹栖東鷹栖比布線工事に対する要望書」をいただいておりますので、視察時に話題に出ていた事も含めて回答致します。

1点目として「現町道の未使用区間の植生回復について」ですが、要望書にもありましたように工事区間の環境の変化をできるだけ最小限にとどめることは重要だと認識しております。ご提案にあったように、道道移管後の現町道部のアスファルトを撤去し覆土を行い、現地付近のその場所にカタクリ等を移植することで現在検討しております。工法については、4月23日の視察時に話題に出ておりました、鱗茎に影響が少ないと考えられる厚さ30cm程度にすき取り移植する方法で考えております。この方法はその土壌中にカタクリの鱗茎だけでなく、マイズルソウやエゾエンゴサクなど他の野草類も同時に移植することができるため、より早期に自然環境を復元することが期待できます。

2点目として「周辺動物の配慮について」ですが、工事区間の生物の影響もできるだけ最小限にとどめることは重要だと認識しております。以前報告した通り、水棲生物の移動を考え横断水路は四角型を使用する事や、小動物の脱出用トラフの設置等については実施設計時に調査結果と照合しないと決定できないことに加えて、具体的な大き

さについては流量等を確認後決定するので現時点では明確な回答はできかねますので、実施設計時に協議致します。維持管理につきましては、排水路に土砂等が堆積し水の流れを大幅に阻害する場合に浚渫等の対策を行う予定です。

また、ノスリの営巣の可能性があることから、工事期間は営巣時期を外した方が良いという事についても、必要であると認識しております。しかし、上川管内では一般的に道路工事は冬季間の施工を行わないために、それ以外の時期で施工を行います。そこで国や道が工事における猛禽類への影響を調査した事例を調べました。それによると4月前後に産卵をし、5月前後に孵化、7月中旬には巣立ちを行うのが一般的であるとの事でした。事例では営巣付近を開拓し工事を行う事例が多かったのですが、今回の地区については現道が近くにあり大型車両も多く通行している事や、採石場も近くにあるので音や車両についての警戒心は、事例よりも慣れているかもしれませんが、工事を行う場合にはなるべく遠い位置から工事を開始すると共に、低騒音・低振動型の重機を採用する事や、小規模の工事から開始して徐々に音に慣れさせていく、倒木する際は営巣方向に倒れないように配慮する、作業員には猛禽類を注視しない、むやみに巣に近づかない等の工夫をしながら、極力影響を与えないように工事を行う事が必要だと考えております。

以上となりますが、道道昇格後にはこれらの事を北海道にお願いし、利便性と環境保護を出来るだけ兼ね備えた道路ができるように工事を行っていただけるように要望したいと考えております。

今後も、工事に係る情報等があれば協議をさせていただくことがあると思いますがよろしくお願い致します。

担当：比布町役場建設課  
課長補佐 大谷  
直通：0166-85-4807